

飯南

いいなん

- 平成23年度 飯南町予算
- 撤回
- 一般質問に8人が登壇
- 採決の結果
- 討論
- 常任委員会報告
- 議会活動報告

飯南町議会 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867

第25号

平成23年4月20日



入学おめでとう

赤名小学校に可愛い新入生が入学してきました。綺麗な花で囲まれた会場は、先生方やお兄さん、お姉さんたちに笑顔で迎えられ、校長先生が一人ずつに教科書を渡す「教科書授与式」では今年から学習指導要領が大きく変わり教科書も少し重くなりました。9名の児童たちは緊張しながらも保育所からの進級が少し誇らしそう。この日は志々・頓原・来島の各小学校でも入学式があり、町では39名が新しく小学校の校門を通ることになりました。

平成23年度 一般会計予算を可決

3月定例会は、3月7日から3月22日までの16日間の日程で開きました。

3月定例会で可決された主な議案は次のとおりです

- 条例関係** 飯南町過疎地域自立促進特別基金条例の制定など14件
- 承認** 平成22年度飯南町一般会計補正予算(第7号)1件
- 補正予算** 平成22年度飯南町一般会計補正予算(第8号)など7件
- 予算** 平成23年度飯南町一般会計予算など8件
- 同意** 監査委員の選任について1件
- 契約締結** 赤来中学校舎耐震補強改修工事請負契約の締結1件
- その他** 公の施設(飯南町水稲種子集出荷選穀施設)の指定管理者の指定など9件
- 議員発議** 飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例など3件

一般会計 予算撤回の経緯

一部の新聞で報道された、飯南町一般会計補正予算が撤回されたことに関する新聞報道がありました。その経過は次のとおりです。

平成19年度に飯南町が島根県より振興資金3000万円を借り入れ、サブロ島根に同額を貸し付け、2年据え置き期間があり、22年度から毎年1000万円ずつ3回に渡って返済を受けることになっていました。

町執行部は平成22年度末(23年3月31日)までに初回の返済が行われず、平成22年度補正予算で、島根県振興資金の借り換えを行い返済期間と返済方法の変更を行う考えでした。

今回の議案提出は、平成23年3月7日で年度末まで24日もあるにもかかわらず返済を変更することを議会が理解しなかったため、提案した議案を撤回し、この部分を削除し再提案することになったものです。

なお、サブロ島根から平成23年3月31日に利息の24万円は入金されましたが、元金の1000万円は返済されていません。

(株)サブロ島根進出による赤来町内への経済波及効果算定表

区 分		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年					
企業直接雇用	直接雇用計	42人	8,520	85人	17,640	85人	17,640	135人	27,744	135人	① 27,744
	事務研究系	2人	840	5人	2,280	5人	2,280	5人	2,280	5人	2,280
	製品作業系	10人	3,000	20人	6,000	20人	6,000	36人	10,800	36人	10,800
業務委託	パート	30人	4,680	60人	9,360	60人	9,360	94人	14,664	94人	14,664
	買取50人程度		12,000		18,000		24,000		24,000		24,000
	うち町内分1/2		6,000		9,000		12,000		12,000		② 12,000
企業人件費支払計①+②			14,520		26,640		29,640		39,744	(A)	39,744
町税収入(約4%)			581		1,065		1,185		1,590	(B)	1,590
予想人口増(雇用の10%)			4人		8人		8人		13人		13人

項 目	数量	単位	単 価	金 額	備 考
産地イメージアップ	1	式	200	200	広告宣伝費
交付税対象の人口増	13	人	40	520	地方交付税増加
地域消費高	13	人	10	130	年間町内消費高(商業統計より)
原材料供給者消費高	10	%	12,000	1,200	購入費の10%
工場光熱費	1	式	300	300	燃料代
計				(C) 2,350	

※町内波及効果…平成21年度(A)+(B)+(C) **43,684万円/年**【(株)サブロ島根の売上高は含まない】
この表は平成16年10月、サブロ島根の事業計画により旧赤来町で作成したものです。

平成23年度一般会計・特別会計・病院事業会計の総額は

94億2,801万円

各 会 計	予 算 額
一 般 会 計	68億3,845万円
特別会計	
国民健康保健事業	7億1,569万円
後期高齢者医療事業	1億6,906万円
介護保険サービス事業	3,628万円
簡易水道事業	2億8,744万円
下水道事業	4億0,223万円
住宅新築資金等貸付事業	125万円
病院事業会計	9億7,761万円

一般会計予算は
68億3,845万円

引き続き **議員報酬減額**
平成23年度も引き続き実施されます。

	現 行	改 定
議 長	298,000円	268,000円
副議長	246,000円	221,000円
委員長	215,000円	195,000円
議 員	205,000円	185,000円

意見書

高齢者へ肺炎球菌ワクチン接種の推進と接種への公費助成を求める意見書

本町では高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種に対し町単独で助成をしていますが、国の対策は不可欠です。高齢者の死因の第4位に、多くは肺炎球菌を原因とする肺炎があり、ワクチンの接種により多大な予防効果が期待できます。

ワクチンの接種向上を図るための啓発活動を行うとともに、公費助成制度を国(県)の制度として創設することを求める意見書を提出しました。

「交通基本法」制定を求め
る意見書

わが国には「交通基本法」が無い。国民が一律に交通機関を利用する権利が確立していません。特に中山間地では交通空白地域が拡大し、通院、買い物等の日常生活に支障をきたしています。

交通機関を有機的に結びつけ、持続可能な交通体系を構築するために交通基本法の制定を国に求める意見書を提出しました。

陳 情

高齢者への肺炎球菌ワクチン接種の推進と接種への公費助成(県・国)を求める陳情

(陳情者)

出雲市塩冶町89-1
島根大学医学部内
肺炎球菌ワクチンを広める会
代 表 磯 部 威

雲南市大東町飯田96-1
公立雲南総合病院内
雲南医師会
会 長 西 村 昌 幸

(審査委員会)
総務厚生常任委員会
(審査結果)
採 択

「交通基本法」制定に関する陳情
(陳情者)

鳥取県米子市弥生町2番地
西日本旅客鉄道労働組合
米子地方本部
執行委員長 佐 貫 馨
(審査委員会)
教育経済常任委員会
(審査結果)
採 択

※採択された陳情は、本会議で意見書を議決し、関係機関へ送付しました。



雪害により破損した教室



体の雪降ろしはなぜしなかったのか。
②学校と町教委の連携は。
③校長と教育長の判断は。
④本件の責任は。
⑤教育環境の悪化をどう考えるか。

Q 頓原小の被害責任は責任は教育長にある

瀧尻 行雄 議員

頓原小学校の上屋根の雪ずりの再発を防ぐと同時に、早期に就学できる体制づくりが必要だ。教育長は対策について、どう責任を感じているのか。

①最初の被害発生後、全

3月定例会 町政を問う 一般質問

Q 地域見守り網の構築を関係機関と連携して

伊藤 好晴 議員

私は昨年9月議会で、地域見守りネットワークの必要性を唱えた。担当課で検討が開始されたようだが、地域に根ざしたネットワークでなければ、その機能も発揮



安部 巨 教育長
①関係者と協議のなかで、異常がなく、以後降雪量も少ないため雪降ろしはしていない。
②学校と町教委とは連絡を密にしている。
③被害の状況は校長が確認報告し、教育長が判断する。
④最終的に教育長の責任となる。
⑤新学期に向けて学級配置、授業方法を検討していく。

できない。早急に住民に提起し実現を目指すべきと考えるが。

山碕 英樹 町長

大雪の中、行政独自の安否確認には、連携不足による効率の悪さがあり反省している。

地域見守りネットワークの立ち上げは、地域包括支援センターを中心に検討を始めている。

現在は、社会生活弱者の見守りを主眼にしているので、関係機関が一体となった取り組みが重要だ。長期的には人材育成も必要なので、早く形にしたいと思っている。

Q 大雪対策について組織づくりに努力

瀧尻 議員

本年の大雪に対し、機敏に高齢者宅への配慮ができなかったのか。雪害対策本部など、今後大雪に対応ができる仕組みづくりが求められているが町長の考えは。

山碕 英樹 町長

今回は雪害予防対策会議で、状況確認を行った。雪降ろしへの助成は行っていない。今後は関係機関と総合的な大雪に対する備えの計画をし、組織づくりに努める。

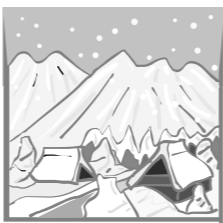
Q TPPの影響は正確な情報で議論を

瀧尻 議員

政府はTPP参加を検討しているが、私は反対だ。町長は、本町への影響をどのように考えているのか。

山碕 町長

TPP参加は農業のみでなく、金融、医療、サービスなどに、国全体のメリット・デメリットがあるが、情報の乏しさや農業の支援策も見えないので反対している。正確な情報に基づいて議論が進められるべきと考えている。



Q 大雪対策の差は独自方針で決定

伊藤 議員

近隣市町では対策本部が設置され、雪降ろし等に補助や助成があったが、本町では雪害対策予防会議が設置されたのみであった。

町の除雪費は、当初予算の2倍以上投入されたが、住民への助成は皆無だった。なぜ、これほど自治体による差があるのか。

山碕 町長

私の責任として警戒態勢で行くという方針を決め、これまでの教訓から、雪おろし業者の紹介は、テレビ広報や役場での取り次ぎ等を行った。



町内の薬局

Q 後発医薬品普及を啓発を続けていく

伊藤 議員

後発医薬品の普及によって国保財政と本人の薬局窓口負担が軽減される。この医薬品の使用による差額を通知する事業に取り組み、医療費削減に努めるべきだ。

山碕 町長

県の国保連事業により、本町では昨年10月から薬品費の差額通知を行っている。後発医薬品についてはパンフレット・希望カード等による普及活動も行っている。通知による効果は徐々に出るので、本年6月の国保連検証を待つて進めていく。

Q 6次産業化法は積極的に活用

瀧尻 議員

本年3月1日に6次産業化法が施行された。これは地域の活力を生み出す決め手としての位置づけでもあり、本町でも積極的に活用し、産業活性化を促していく考えは。

山碕 町長

地域ビジネスの展開、新産業の支援に対して、この法律を活用して農林商工業を元気にしていく。

※6次産業化法
農業生産者が生産・加工販売・直売所の運営などを行うことを支援する法律

Q 糖尿病の罹患対策を医療機関と連携

伊藤 議員

糖尿病の罹患者が増加の一途をたどっている。対策は早期発見、早期治療だが、特定検診（国保加入者）の受診率は40%前後というのが現実だ。検査のハードルを下げる事業（糖尿病診断アクセスマ革命）を策定する考えはないか。

山碕 町長

ご指摘の事業は糖尿病の早期発見に有効だと感じている。本町では医療機関と連携して、紹介のあった先進事例を協議し、可能であれば実施に努力する。

※後発医薬品（ジェネリック医薬品）
特許が切れた医薬品を他の製薬会社が製造または供給する医薬品。
※糖尿病診断アクセスマ革命
薬局店頭に設置した指先採血HbA1c測定器によって未発見・未治療の糖尿病やその予備群を見つけ出し、早期診断・治療へ繋げていく社会実験プロジェクト。

3月定例会 町政を問う 一般質問



Q 転作に公社を活用
事務局体制を検討

門 眞一郎議員
転作の割り当て数量は拡大が予想されており、これに備え、作業受託組織の確立と農業機械リース事業の創設により農業組織等へ過大な負担を掛けない仕組みづくりが急務だ。また、分散した転作圃場の作業受託と作業者へ手配を行うマネージャーの設置、經理のサポートなどが要する。農業公社を活用して、問題解決を図るべきでは。また担い手組織を束ねて、管理する機能をつくる考えは。



大豆の刈取

山崎英樹町長

農業機械リース事業の創設や活動の中心となる人材配置などにより、集落営農を加速させるなど、新規農業者の参入や健全な農業経営を目指すことは、本町にとって大切な考えであり、関係者や集落と話し合いながら進める。

昨年6月の法改正により、飯南町が農地利用集積団体化団体になって農地の集積事業を行っており、農業公社が行うのは不適當だ。事務局体制（マネジメント組織）づくりは、J・A・行政・各種団体が一緒になって検討を進める。

Q 高校の魅力づくりは
県の新規事業で対応

小野 覚議員

①飯南高校の魅力づくりを目的とした「飯南高校ドリーム思援会議」の取り組みが期待されているが、高校の存在意義をどのように認識するか。
②島根県が平成23年度より新規事業として、「離島中山間地域の高校魅力化

Q 連坦地の空き家の雪害対策は
町条例での対応を検討

門 眞一郎議員

連坦地には空き家が点在し、雪降ろしがされないまま放置され、倒壊や軒の破損など被害が発生した。

家屋の倒壊により、児童や通行人や隣家のほか、電線などに被害が及ぶ可能性がある。

所有者と十分に協議して、定住促進空家住宅として協力をお願いするべきだ。また、所有者が不明の場合は法的な措置も検討すべきだ。

山崎町長

危険な空家は自治会長を中心に所有者へ連絡をした。また、今回の豪雪では地区担当職員が見回りを行い、役場からも所有者へ雪降ろしをお願いした。通学児童の安全確保は、先生が登下校時に随行された。

所有者不明の空家住宅は、町条例で対応が出来ないか検討を始めている。

Q 神話で地域振興を
県と共同展開を

門 眞一郎議員

県では古事記編纂1300年を記念してさまざまな行事が企画され、神話のふるさと島根を強く印象付け、観光客数の拡大を図っている。

本町では、有志により銀山街道を訪ねる会を組織し、四度の銀山街道ウォーキングを開催、上赤名は出雲風土記にある野見野の地であり、相撲の始祖野見の宿禰の生地と言われており、スクネブランドの商品開発を行っている。

眠れる神話や伝説を掘り起こし、住民と共有しながら、観光客の誘致や地域の活性化につなげていく考えは。

志々乃村神社



山崎町長

歴史文化資源を活用して地域に活力を生み出すことは大切なことだ。県の神話のふるさと島

根推進事業を活用し「飯南町神話のふるさと推進協議会」を立ち上げ、本町の魅力を再確認し、住民団体等で開催される企画やイベントなどの掘り起こしや共催で地域の活性化や観光交流事業展開につなげる考えだ。

Q 定住対策は進んだのか
重要課題で取り組んだ

小野 覚議員

改正前の過疎法が始まって以来10年間の成果をどのように評価しているか。

本町は定住対策を重点にまちづくりを進めてきたが、人口の減少、高齢化の進行、労働人口の減少は深刻な状況だ。本町のI・Uターンの

対策は。

山崎町長

過疎対策事業の前期5カ年は旧町単位で実施、後期5カ年は新町で計画を策定し事業実施した。この10年間で、ハード事業に179億円余、財源として過疎債を65億円余活用した。

定住対策の成果は、定住相談、空き家バンク制度の創設、職業紹介所の開設、定住助成制度等によって、I・Uターンの確保に努め重要課題として取り組んだ。



飯南高校



泉川定住住宅

ない拠点である。クラブ活動で大きな成果を上げるなど存在意義の評価が高い。

①飯南高校は多くの人材を輩出し、地域の活力や活性化に欠くことのでき

②飯南高校は多くの人材を輩出し、地域の活力や活性化に欠くことのでき

③飯南高校は多くの人材を輩出し、地域の活力や活性化に欠くことのでき



大豆は種作業



Q 転作を団地化で
JAと協同で進める

長島 正一議員
本町では今年から3年間で、転作増加40haを実施することになる。効率の良い団地化や担い手育成、農家や認定農業者の所得向上を図るべきだが、次の6点を問う。

昨年と今年の転作状況
大豆等戦略作物の全町ブロックローテーション。合併後における認定農業者の育成実績。
農地集積に関し、白紙委任と農地利用集積円滑化事業について。
大豆や飼料米でなく、投資のいらない加工用米や米粉による6次産業化の考え。
有害鳥獣に対する行政の取り組み。

山崎英樹町長
昨年の団地化での転作面積は大豆40・8ha、そば7ha、飼料作物1.4ha。今年は大豆45・8ha、そば19ha、飼料用米2ha、ホールクロップサイレージ2ha、飼料作物1.4haを計画している。

とも補償はJA雲南管内で行う考えだが、とも補償によるブロックローテーション化も有効と考えられるので、関係者と相談する。

平成18年から3年間で、担い手や法人数は16件71・8haを集積している。白紙委任による面的集積は課題が多く検討中。農地利用集積円滑化事業は、集落営農等を束ね、その上に組織化する2階建てが重要になると考えており、JAとともに進める。

米粉の研究は停滞している。転作はJAと協議していく。
猟友会と集落や農業者による協議で対策。国の事業で集落単位に防護柵を設置。猟友会への活動費を充実。の3点で取組む。

Q 豪雪対策を問う
A 体制整備を進める

長島議員
住民に安心感を与えることを目標とする本町だが、今回の豪雪では、住民から「年をとったらこの町には住めない」との声があった。次の点をどう考えるか。
豪雪対策本部を設置しなかった理由は、

連坦地の町道に落とされた屋根の雪は町が除雪し、また、消雪水路等の問題は住民の意見を聞き反映すべきだ。
地区担当職員の有効活用や担い手づくりで、集落共助の仕組みづくりを。消防団の広域応援体制の充実や、除雪ボランティアの受け入れの考えは。

山崎町長

雪害については予防会議で警戒態勢をとった。1月31日、職員による見回りを実施し、緊急性は無いと判断した。
路上に降るされた雪は道路除雪とあわせて排雪しているが、地域と相談し、一斉に雪降ろしをするしくみを確立する必要がある。

雪降ろしの助成は、必要な方にはすべきだと思っている。
流雪溝は水量不足箇所もあり、部分改修や新設を検討する。
集落の体制が整えば、集落活性化支援事業で小型除雪機の配備を考える。
道路除雪会議があるが、雪降ろし関係者の会議も必要と考える。都市からのボランティア受け入れは体制整備が重要。関係者で検討する。

Q 教育環境に最善を
A 原因究明し整備



熊谷兼樹議員

雪害で頼原小学校が破損し、児童の教育環境は窮屈な状況にある。
原因の究明、責任の所在の追求も重要だが、まず児童の教育環境を、現状で考えられる最善の対応をすべきだ。

安部 巨教育長

原因究明、責任の問題等を解決しないと、復旧方法や工法も決められないという現状もある。
児童の教育環境は重要なので、プロジェクトチームを立ち上げ、情報を提供しながら整える。

Q 飼料用米はリスクがある
A 施設近くでの栽培を

熊谷議員

飼料用米の栽培は、主食用米への混入が心配されるなどの多段階において混入リスクがあるが、どう考えるか。
飼料用米の乾燥調整施設は、雲南市大東町にあるが、本町で栽培された

物を輸送するのは非効率ではないか。

山崎英樹町長
乾燥・調整については、大東町の施設で対応し、専用機械を整備する。
また、施設の近くでの栽培を基本と考える。

種まき準備作業



Q とも補償の再考を
A 雲南全域の視点で

熊谷議員

県下の良質米生産地帯として、連携を深めることは重要だ。1市2町での事業なので、より効率的に運用できるよう、とも補償システムを再考してはどうか。

山崎町長
かつてJA雲南では、とも補償をした経過がある。それを活用しながら、オール雲南の視点で適地適作を推進する。

Q 耕畜連携の推進を
A 実証実験で対応

熊谷議員

耕畜連携の推進は地力維持に不可欠であり、その中でも衰退傾向にある畜産振興は重要な課題。その一つの解決策としてホールクロップサイレージ(WCS)用稲の栽培とコントラクター(農作業受託組織)の育成を提案するが、町長の考えは。

山崎町長

耕畜連携の意味から、WCS用稲とコントラクターは魅力のある考え方で、町の水田協でも畜産農家代表から提案を頂いている。
水田の輪作体系としても有効と考え、23年度に本町で実証実験を行う。

※ホールクロップサイレージ(WCS)とうもろこしや稲のように、従来は子実をとることを目的に作られた作物を、繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を一緒に収穫してサイレージに調整したもの。



古市工業団地

Q 企業誘致の責任は責任を感じている



安部誠也議員

合併直前の赤来町時代にサブロ島根は誘致され、約1億円をもって古市工業団地が造成された。

用地造成については議会にも議決責任があるが、議案提出後1時間で賛否を問われ、議会軽視と言われても仕方のない状況であった。

当初はパートを含め135人の雇用と4億3390万円の経済波及効果があるといわれており、7年目の現在、約20億円を失った計算になるが、責任を感じているのか。町長の肝入りで企業立地した経過から一刻も早くこの土地を活用するべきだ。

きだが。

山崎英樹町長
サブロ島根は計画に程遠い状況で、責任を感じお詫び申し上げます。
新たな企業誘致に向け情報の収集を行っているが可能性のある企業はない。

Q 県の観光企画の対応は
A 森林セラピーを生かして

安部議員

25億円を投じて島根県の観光キャンペーン「神々の国しまね」古事記1300年〜」が平成22年度から4年間行われる。

雲南地域はヤマタノオロチ伝説の舞台だが、本町は古事記や日本書紀等に記載が無く、出雲風土記に琴引山や三瓶山が出てくる程度で、本町の埋没が危惧される。
県は市町村に対し、職員の派遣と5億円を負担するように求めている。地理的に出雲地方の南の

Q 行政評価制度の導入は
A 振興計画に定めていく

安部議員

厳しい財政状況のもと最小の経費で最大の効果を挙げるには、効率的、弾力的な行政運営が必要だ。全国的に多くの自治体で行政評価システムを導入している。

本町も総合振興計画に導入するとあるが、対応は。

山崎町長

年度は定めていないが、今後具体的なことは定めていく。

そのほか「雪害の対策本部設置の基準と連担地の除雪対策について」の質問がありました。

Q 責任ある町政を
A 福祉向上に最善



石原敏郎議員

山崎町政は、手段と目的の混同・あまりにも言葉が軽すぎる・重要課題に町長の姿が見えないなど、理念なきダツチロール状況だ。

「やるべきことを放置すると罪になる」という観点にたち、町政執行に責任をもつべきだが、どうか。

山崎英樹町長

町の最高責任者として、町民の思いをしっかりと胸にとめ、言葉が軽いという点ではなく、町民の皆様方の福祉向上に向けて最善を尽くす決意だ。

Q 役場新築は反対
A 財政措置で対応

石原議員

私は、本庁方式をとるべきだという立場だが、庁舎建設には反対だ。

次の町長選は平成25年1月だが、直後に新庁舎を建設するのは、将来を大きく左右するので思いとどまるべきだ。

町民に賛否を聞いても賛成者はいないが、この実態をどうとらえる。

山崎町長

新庁舎建設は、有利な借金である合併特例債を予定しているが、利用期限が平成26年度までで、私の任期云々ではない。

賛成者がいないというが、庁舎は何十年の拠点施設となるものだ。

国の財政や地方の財政状況はますます厳しくなると予想されるので、財政措置がある今、整備するという観点だ。

Q サプロとの関係は
A 運営の見直し後に

石原議員

サブロ島根へ対し、町出資によるニセク化実施、経営悪化に3000万円を貸付、経営陣の相次ぐ交代を看過するなど失態続きだ。また、今議会のサブロに関する補正予算は、典型的な問題先送りと悪質な救済策で非常識だが。

山崎町長

町の活性化に有効な事業であり、ぜひ成功させ



サブロ島根

たいとの思いで対応してきたが、現在の経営状況は非常に厳しく、結果がでない以上ご指摘は真摯に受けとめる。
会社は今、運営全般の抜本的見直しを行っているので、それを待つて対応する。

Q 「もりのす」の備えは
A スタッフとともに

石原議員

再開を控えた「もりのす」だが、島根県民の森・ふるさとの森・もりのす・森林セラピー基地と、利用者にわかりにくい。今後どう対処するのか。

また、「もりのす」ではマクロビオティック料理を提供すると聞くが、これは無双原理という深遠な思想に基づいたものだ。

町長もフロンティアあかぎと価値観を共有して、その名に恥じない料理を提供すべきだが。



「もりのす」のマクロビオティック料理

山崎町長
利用者の視点で、パンフレットなど、分かりやすい名称・資料・PR方法を行う。

私にマクロビオティックの知識はないが、フロンティアあかぎの若いスタッフから提案があった。
生命地域飯南町、また、森林セラピー基地の理念をあらわす料理として取り組みたい。

※マクロビオティック
一般的には「玄米菜食」による食事療法のこと。玄米をよく噛み、季節の野菜を使った発酵食品と味噌汁を頂くことが中心となるが、単なる食事療法ではなく、宇宙の秩序や自然界の法則に基づき、人間が真の幸福に至ることをいう。

総務厚生常任委員会

委員長
瀧尻行雄

飯南町過疎地域自立促進特別事業基金条例の制定

平成22年度のきめ細かな交付金で子宮頸がん、ヒブ等のワクチン接種補助を行うようにしていましたが、子宮頸がんワクチン生産が間に合わないため22年度中の接種は困難になりました。ヒブワクチンは事故の可能性があり、調査中のため一時接種が見合わされています。このため基金を設置し、ワクチンの接種が可能になるまで貯蓄します。



飯南町課設置条例の改正

事務分掌のうち「自治振興及び地域コミュニティーの推進に関すること」を産業振興課から企画財政課へ移すものです。

これは課横断的な仕事なので、本来総務課が行うべきではないか、他の課が行う場合は権限を与える必要があるとの意見がありましたが、集落担当制と連携を取り、適切な仕事をすると回答を受けました。



平成23年度飯南町一般会計

健康なまちづくりを目指して〔衛生費・保健衛生費〕

昨年に比べ健診率が低下しています。保健師1名の退職が影響しているのではないかと、分析の結果はどうか、節目健診は飯南病院で行うべきと思うが体制はどうか、などの質問がありました。

保健師の不足は事務職員のサポートによって現場が動きやすい体制をつくります。分析は出来ませんでした。4名の医師体制ではドックで60名が限界ですが、非常勤ドクターで対応が出来ないかと努力します。との回答がありました。



障がい者グループホーム・ケアホーム新設事業〔民生費・社会福祉費〕

障がい者の施設は地域と離れては意味が無い、日常生活と変わらないような生活があることが大切です。

設置場所は病院に近いなどの条件があり、結果として「あゆみの杜」で引き受けていただくことになりました。設置方法は公設民営により、定員は6名です。



教育経済常任委員会

委員長
小野 覚

売れる米づくり事業〔農業振興費〕 ヤマトイモ推進事業〔農業振興費〕

委員から「従来の仕組みを変えるのか」という質疑に対して、今までは生産者がJAに出荷したものを、フロンティアあかぎが買い取って販売していました。

23年度は、JAに出荷した米は、精米センターを通してエコ米推進協議会が売り、売り上げの差額部分は、生産者に還元するという事業です。同時にエコ米推進協議会がPR戦略を考えます。

「町から組合への貸付金より少ない生産額で戦略作物とはいえない」「戦略作物から外せないのであれば方向性を考え直すべきでは」等々の質疑に対して、産業活性化ビジョンや国道54号アクションプランで位置づけているので、今後も戦略作物として推進するとの答えでした

戦略作物としての実態をとまなっていないと感ずるところから、方向性を示すよう意見を付しました。



特産「飯南米こしひかり」



ヤマトイモ商品

飯南ブランド確立推進事業〔商工費・観光費〕

新規事業のアンテナショップ開設事業ほか多様な事業が計画されているが、「ブランド看板設置の意義はあるのか」等、事業効果に対する厳しい発言がありました。

産業振興に結びつくよう目的と方向を定めるよう意見を付しました。



飯南高校教育支援事業〔教育費・事務局費〕



飯南高校魅力づくり対策検討会議「飯南高校ドリームアップ支援会議」の提案にもとづいて、美郷町粕淵方面へスクールバス運行、寄宿舍寮費の食費を除いた経費補助など、生徒確保に向け大幅な増額予算となっています。

平成23年1月24日、総務厚生常任委員会は医師確保の方策を考える上で、研修医に人気のある浜田医療センターと、地域医療の研修を受け入れている弥栄診療所を視察しました。

浜田医療センターおよび弥栄診療所

浜田医療センターは浜田圏域の中核病院であり、県西部唯一の救命救急センターとして地域の診療所や開業医と連携し住民の健康管理を行っています。

最新の医療機器を導入し、高度医療を行い、研修医の受け入れを積極的にすすめることで、医師体制の充実を図っており、年々研修希望者は増加しています。

また、浜田市国保診療所連合体を組織し、大麻診療所、弥栄診療所、波佐診療所、あさひ診療所の4診療所に5名の医師を配置しています。この5名の医師が定期的に他の診療所で診療を行うことで、それぞれの専門分野を活かした医療を行うことができ、より密度の濃いサービスを可能にしています。

問 医師に地域で長く働いてもらうために、私たちに出来ることは何か。この診療所で仕事をしようと思った時、家族の理解はすぐに得られたか、モチベーションを高めるために何をしているか。弥栄診療所所長 阿部顕治先生に伺いました。

答 8回やめて帰ろうと思い、9回思いとどまった。私はこの診療所には何度か訪れたことがあったので、来て欲しいと誘われたとき抵抗は無かったが、妻は悩んだようだ。地域の方となじめるか、子供の教育は大丈夫か、不安に思っていたようだ。地域の皆さんとのつながりが私をここに居させている。モチベーションを高めるために研修している。

若い医師は特に自分の医療技術が時代遅れになっていないか、いつも不安を持っている。私はリハビリの必要性を感じ、研修をしたいと当時の村長にお願いした。村長は県立中央病院から医師の派遣を受け、2週間の研修に出してくれた。このことには非常に感謝している。



弥栄村は定住先進地で若者住宅や子育て支援に力を入れてきました。このことが医師を確保する上で力になったと考えられます。支えあいの心を持った住みよい地域、安心できる住環境や教育環境など、定住対策と医師確保はまったく別ものではないことに気づきました。

医師やその家族を特別扱いするのではなく、町民のひとりとして、よき隣人として支えあうことこそ定着につながると感じた研修でした。

浜田医療センター



海士町が取組んでいる隠岐島前高校の魅力づくりプロジェクトと産業創出について学び、飯南町の行政に反映させる目的で、平成23年2月28日・3月1日の両日隠岐郡海士町を視察した。

隠岐島前高校の魅力づくりプロジェクト

入学者数が定員を下回っている中で、魅力づくり事業により島外から生徒数が増加しつつある。

魅力づくり構想

○寮の活用

海士町では寮の運営を県から委託され、この寮を使って多様な交流の機会の提供、海外や都市との交流や留学生の受け入れを行うなど有効活用している。飯南高校も寮を使ったアイデアを示す必要性を感じた。

○公営塾「隠岐国学習センター」

塾と高校との連携がいかに出来ているかが重要で、学習指導は1ターンで定住している若者が積極的に携わり、実績を上げている。

○「高校の存続は島の存続に直結する」

このことは本町にも言えることで、飯南高校の存続は本町の存続に直結していると改めて感じた。単に高校の問題としてではなく、本町のまちづくり政策の中で課題としてすすめることが重要だ。

定住・産業振興

地産地商課長から説明を受けたが、最初の言葉に海士町のすべてが現れていると感じた。それは「生き残るための攻めの戦略・一点突破型産業振興策」だ。

「攻め」は地域資源を活かし、島に産業をつくり、人(雇用の場)を増やし、外貨を獲得し、島を活性化することであり、成長を島の外に求めることだ。そのことが地産地商課の「商」に象徴されている。

他に定住と観光開発を担う「交流促進課」、新たな産業創出を目指す「産業創出課」が設置され、この3課を、町の表玄関であり、情報発信基地やアンテナショップでもある港のターミナルに置き、現場重視を徹底している。

「ヒントは現場にある。現場でしか知ることの出来ないものを見落とすな。役場の中では発想は生まれにくい」。事務所は年中無休であることに海士町のすべてが現れていると感じた。

情報発信は広告宣伝費の掛かることをせず、都内の居酒屋、オイスターバーなど取引先にディスプレイを17台設置して海士町の映像を休み無く流して行われている。課長から「飯南町の情報も流すことが可能なので検討しては」と提案があり、早速本町の職員が海士町の担当者と協議に入った。

産業振興策を進めた結果、雇用創出効果は138人(1Uターン)となり、平成16年から21年までの6カ年で1ターンがさらに1ターンを呼び156世帯257人、Uターンも157人となり人口構成が変化し20代30代が大きく伸びている。

1ターンのための特別な支援は無いが、自分が活躍する「場」を求めている若者と、「やる気」と「スキル」のある若者を求めている島が融合して、新しい力に発展している。彼らは島の宝探しをして島のために役立ちたい、起業したいという志しを持った若者が多く、そしてこれを受け入れる土壌が海士町にある。

「わか者」・「ばか者」・「よそ者」が島起こしの原動力だ。異質なものを取り入れ、多様性を持つことで変化し成長する。島が生きていくには「わか者」や「よそ者」の力が欠かせない。「よそ者」を受け入れる土壌・環境の違いを強く感じた。

海士町の玄関口菱浦港



議会広報 写真記録

浜田市議会議場



海士町の岩ガキ



理科の実験は楽しい



議会活動報告(1月~3月)

1月

- 7日 議会広報編集委員会：一般質問要約作業
- 9日 飯南町消防団出初め式
- 13日 議会広報編集委員会：紙面校正作業
- 24日 総務厚生常任委員会視察研修（浜田市）

2月

- 2日 議会運営委員会：臨時会の提出議案、日程外の協議
- 3日 **第1回臨時議会**
- 9日 教育経済常任委員会
- 17日 雲南消防組合定例議会
雲南環境衛生組合議会
- 17~18日 第73回町村議会広報研修会：東京 砂防会館
- 18日 雲南広域連合議会
- 24日 総務厚生常任委員会
- 25日 議会全員協議会
- 28~3/1日 教育経済常任委員会視察研修（海士町）

3月

- 4日 議会運営委員会：3月定例会の提出議案、日程ほか協議
- 7日 **3月定例会**：本会議、町長提出議案の説明
- 8日 ：本会議、町長提出議案の説明、質疑
- 11日 ：本会議、一般質問
- 14日 ）：委員会審査
- 15日 ）：委員会審査
- 16日 ）：委員会審査
- 17日 ）：委員会審査
- 18日 ）：本会議
- 21日 ）：本会議、委員会審査
- 22日 **3月定例会**：本会議、討論、採決
- 30日 議会広報編集委員会：一般質問要約作業

今日から初登校



編集後記

3月11日に発生した東日本大震災の被災者の皆さまに心からお見舞いを申し上げるとともに、復旧作業に全力を尽くされている皆さんに敬意を表します。

1日も早い復興と福島第一原子力発電所の収束を願うばかりです。

さて、3月11日に飯南町議会では一般質問が行われ、8人が質問に立ち、今年の大雪による被害や除雪体制、お年寄り宅の雪降ろし助成など町民の生命財産を守るべき行政の姿勢を問いました。

同じころ、マグニチュード9.0の地震が起こり、東北と関東の海岸を未曾有の大津波が襲い、推定で2万8千人が犠牲になりました。

難を逃れた人は一瞬で判断し、迅速な行動を起こした人で、災害発生時に早い対応がどれほど大切かを物語っています。

本町においても、迅速かつ的確な判断により町民の皆さんの生命財産を守るとの決意を新たにしました。

議会広報編集委員会

門 眞一郎